

学 番 中等6 県立佐渡中等教育学校

平成30年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画									
学校運営方針		佐渡の歴史と文化に誇りを持ち、豊かな知性と人間性を身に付け、世界的な視野で活躍できる人を育成する。 ①知性・人間性・郷土愛の育成を三本柱に、生徒が人間的に成長し、帰属意識を持って主体的に学校生活を送ることができるよう、全職員で取り組む。 ②6年間の一貫した教育活動により、全職員で学力の向上と進路意識の高揚に取り組み、生徒の高いレベルでの自己実現を図る。生徒が、佐渡に誇りを持ちながら世界的視野に立ち、将来社会に貢献したいという志を育む。							
昨年度の成果と課題		年度の重点目標		具体的目標					
全職員が公開授業を実施し授業改善に努めた。また、6年間を見通して総合的な学習の時間の指導計画を改善した。今後さらに、進路指導、学習指導、生徒指導において6年間を見通した組織的な活動ができるような指導計画の作成・改善が課題である。		学校運営の組織マネジメントの確立		・組織の体制づくり ・教育活動の反省と記録の蓄積					
		自己実現に向けた確かな学力の育成		・家庭学習を含めた学習習慣の確立 ・6年間のシラバスの作成と有効活用					
		豊かな心と健やかな身体の育成		・望ましい人間関係の構築 ・自己有用感の育成					
		郷土を愛し地域に貢献する態度の育成		・「能楽」の実施と「佐渡学」の充実 ・グローバル人材育成への取組充実					
重点目標	具体的目標	具体的方策				評価			
学習指導	学習習慣の確立	家庭学習課題の明示と毎日の点検、補充の指導の充実				A	A	B	
		学び方の指導の徹底				A			
		学習規律の徹底				B			
		各種検定試験への積極的参加の推奨				B			
	分かる授業と学び合う授業の実践	学び合いの集団作りとアクティブ・ラーニングの充実				B	B	B	
		発展的な学習内容の充実				B			
	6年間を見通した系統的な指導	シラバスの作成とシラバスを活用した学習指導の実施				B	B	B	
家庭学習カードを用いた家庭学習の奨励と点検				A					
進路指導	後期生の進路実現を目指した具体的目標の達成	進路講演会や行事、体験を通しての自己理解と支援				A	C	B	B
		大学入試への対応 ①大学進学率70%以上（大学入試センター試験受験率100%） ②国公立大学合格者11名以上（在籍生徒の30%以上） ③進研模試偏差値 4 学年3教科（国数英）偏差値56以上 5 学年3教科（国数英）偏差値56以上 6 学年5教科（国数英理地公）偏差値58以上							
総合的な学習	課題追究方法の習得及び発表力・表現力の育成	各学年のテーマに沿った調べ学習や学び合いを通じた課題追究の方法の習得				B	B	B	
		学習発表会や校内発表会等に向けた発表力や表現力の育成				A			
	郷土を愛する心の育成	スクール・カルチャー「能楽」や「佐渡学」の実施				A	A		
	進路意識の高揚	生き方や将来について考え、進路実現に向けた取組への啓発活動				B	B		
世界的視野の育成	海外研修旅行の実施と国際交流				A	A			
	望ましい集団づくり	学活、行事での協力体制づくりと異年齢集団の活動への支援				A	A	A	
		生徒の自主自立を育む生徒会の支援				A			
Q－U調査を利用した生徒理解と集団への所属感の育成				A					
道徳	思いやりの心の育成	認め合い高め合う集団作りの指導				A	B	B	
		ボランティア活動の実施				B			
生徒指導	望ましい人間関係の構築	Q－U調査やエンカウンターを取り入れた取組の実施				B	B	B	
		教育相談、特別支援教育による実態に即した指導				A			
	基本的な生活習慣の確立	服装、時間、きまりやネットモラルの遵守の徹底指導				B	B		
		生活ノート等の点検や教育相談によるきめ細かな指導				A			
いじめや生徒の悩みへの対応	いじめ問題に対して全教職員で情報を共有する。そのためアンケートを月1回実施して、いじめや生徒の悩みの早期発見に努め、迅速な解決を図る。				A	A			
	成 果	授業改善の取組は、継続的な研修ができる体制を確立できた。また、総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育の系統的な取組ができた。いじめの認知件数は増えて教職員が生徒に関わる体制はできてきたが、より組織的な対応とすることが今後の課題である。				総合評価 B			